

## 「全農 ET センターニュース」10月号

## 和牛の超早期母子分離技術（その 1）

## 1. 分娩前に行うこと

分娩前に行うことは基本的に母牛に対して行う。まず母牛に対する十分な栄養，そして安産のすすめである。

## (1) 母牛に対する十分な栄養

胎児は分娩前 60 日で 60~65% 成長すると言われている。つまり胎児は分娩直前に急速に成長する。分娩前の栄養給与量が NRC の要求量 70% 程度でも分娩させることは可能であり，新生子牛の体重への影響は無いと言われている。しかし母牛への影響は大きく体重の減少や，発情回帰や初回種付けへの影響は大きい。よって分娩前の母牛への十分な飼料給与が必要となる。

## (2) 安産のすすめ

子牛は分娩時，母牛の体内から体外へ出るとき一時的に無酸素状態となる。これは体内にいるときはへその緒を通して酸素を得ているのに対して，体外に出ると自ら肺呼吸により酸素を得るようになる。この移行期が分娩時となる。お産が難産になると母子ともに体力の消耗が激しい。子牛の初乳を吸う力が弱く初乳給与に労力を必要とする。また分娩時の無酸素状態が長くなることにより血中の二酸化炭素濃度が高くなる。二酸化炭素濃度が高くなると初乳からの免疫グロブリン吸収率が低下するとの報告もあり，せっかく給与した初乳の効果を十分引き出すことが不可能となる。

## (3) 昼間分娩

子牛に初乳を好条件で給与するためにはお産に立ち会うことが理想的である。このために一般的に行われている方法として飼料の給与方法の変更を行う。分娩予定日 2 週間前程度から 1 日に給与する飼料を夕方 1 回給与に変更する。給与する時間は遅いほうが昼間に分娩する確立が高まる。できれば 18 時以降に給与する。

